

忘れかけていた「言葉の基礎知識」

ジャーナリスト
海部隆太郎

自分の名を漢字で書けるようになったのは、小学1年生だったか

2年生だったか。今は記憶の片隅にもない。自分の意思を伝える言葉（漢字）の重要性は認識しつつも、複雑な漢字は読めるが書けない状態が現在まで続いている。よくもこれで文章を生業としてきたものだと思うが、それはそれで何とかなった。

さて、同じ漢字でも国が違えば発音は異なる。日本の報道では、例えば習近平国家主席は「しゅう・きんぺい」、台湾の蔡英文総統は「さい・えいぶん」のように中国人の名を

日本語で呼称する。本来ならば「シー・ジンピン」「ツァイ・インウエン」が正しい呼び方ではないのかと思う。ただし、韓国の場合はやや違う。昔は金大中「キン・ダイチュウ」のように日本語で読んでいたが近年は、文在寅大統領は「ムン・ジェイン」と韓国語に沿って発音している。

この違いは何なのだろうか。

この疑問を外務省の役人に聞いたことがある。「日本人の名前を日本語で読んでいる国に対しては、日本も当該国の言語で名前を表記します」というような答えだった。確かに中国の人は私のことを「ハイブー」と呼んでいた。やや脱線するが、米国のゴールドウォーター元上院議員は中国の新聞では「黄金水」と表記され、英国のサッチャー元首相は「鉄人宰相」だった。この点、カナのある日本は便利だ。

「障害者」か「障害者」か 「障がい者」なのか

漢字で最近気になるのは「公平と公正」という言葉。ともに物ごとに対して平等に扱うという意味が込められていると思うが、公平の言葉の意味に平等はいらぬのではと考えている。なぜならば身体的ハンディ

キャップのある人と健常者を平等に扱って良いとは思わないからだ。例えば、交通機関に優先席があるのは当然であり、乗客は誰でも平等であるべきではないと考える。職場でも同様であろう。

新聞記者時代によく議論した言葉が、「障害者」か「障がい者」と表記すべきか、どちらも判断しにくいから「障がい者」と書くべき、などという議論だ。新聞社の用字用語集では、「障がい者」はできるだけ使わずに「障害」の表記を推奨しており、「障害を持つている」という表現は、自らの意思で持つていることになるので不可。「障害がある」と書くようにという指示があるだけ。結果は、その時のデスクの判断で表記されていたと思う。昔の話だが、現在の統一基準も同様らしい。

今でも役所は「障害者」と表現する。日本パラリンピック委員会の

河合純一委員長が言うには「社会モデル的に見れば、害を及ぼす人ではないと考えているのだから、障害者という表記でもよい」。つまり、社会全体が障害のマイナスマのみをとらえた考え方をしないこと。障害は個人の側にあるのではなく、社会が生み出しているところから社会モデルを形成することが第一だという。詳細な説明は紙幅の関係上、今はできない。

漢字で表現する言葉の意味は多様である。悪意を連想させる文字も、善を前提にした社会の中で使われることで、意味が変わってくる。なによりも公平な社会づくりが必要だと思う。

【筆者紹介】

海部隆太郎

(かいべ・りゅうたろう)

法政大学卒。日本工業新聞社、IT企業を経てフリー。中小企業を中心に企業が抱える幅広い課題を取材・執筆活動を展開する。

